



銀のたまご

VOL. 20

令和4年2月1日号



特集 シルバーの職人たち

住まいの困りごとを解決します

＼ 高齢者が働くことに生きがいを感じ、地域社会に貢献する /
公益社団法人 成田市シルバー人材センター



特集

シルバーの職人たち

住まいの困りごとを解決します

「ちょっと…したい」に
お応えします

日常生活の中で、住まいの一部が壊れたり使い勝手が悪かったりして困った経験は誰でもお持ちのことと思います。自分で直せば問題はありませんが、ほとんどのご家庭では道具もなくやり方も分からないというのが実態ではないでしょうか。とはいっても工務店に頼むには気が引けるし…。こんな「ちょっと修繕したい、ちょっと使いやすくしたい」というお悩みにお応えしているのがシルバーの大工職人です。

現在シルバー人材センターに「大工」として登録している会員は3人(1人休職中)で、年間20〜30件の仕事をこなしています。コロナ禍の前は約50件程度の受注がありましたので、少なからず影響を受けましたが、引き続き多くの皆様にご利用いただいています。また、満足度調査でもシルバーならではの親切丁寧な仕事と確かな仕上がりに高いご評価をいただいています。

今回は、長年大工として培ってきた熟練の技術と経験を生かして地域貢献に励む会員の横顔などを紹介します。



自分の経験と技術を 人のために



藤崎 幸夫 会員(津富浦)
大工歴 53年

大工職として加入している他の会員と比べセンターへの入会が一番遅く、まだ5年目を迎えたばかりです。最初は鉄道会社に入社したのですが、サラリーマン社会が性に合わず、すぐにやめて職人の世界に入りました。退職後の昭和42年に都内の工務店に勤務、昭和51年に大工として独立して平成28年まで仕事を続けていましたから、シルバーと合わせると職人歴は50年以上になります。

入会のきっかけは、たまたまシルバー人材センターのチラシを見たときに、亡母が生前によく口にしていた「年が行ったら人のためになる事をするように」という言葉が脳裏に浮かんだことで、自分の経験と技術が、地域の人のためになると思った

からです。

家を建てる場合も修繕するときも常に心掛けているのは、「他人の家でなく自分の家と思い」、使う人の身になって仕事をするということだと思います。以前、新築工事が終わり帰ろうとすると、依頼主が涙ながらに見送ってくれたことがあり、今でもそのときの光景が忘れられません。笑顔の「ありがとう」とは違った形で感謝の気持ちが伝わってきてこちら胸が熱くなりましたね。



仕事を教えてくれた明治生まれ職人から譲り受けた玉鋼の鋸と突きノミ

塗装工事 塗料の適量を見極めて塗る

大工をしていると、同じ現場でいろいろな業種の職人が一緒に仕事をすることがよくあります。そういう訳で大工職人は見様見真似で他の職人の仕事もできるという人が結構います。わたしの場合は、建築現場で一緒にいた塗装職人が、忙しい時に手助けできればと思い基本を教えてもらったことが塗装を始めたきっかけです。本職ではありませんので、塗るのは外壁や屋根だけで室内はやりません。

塗装で難しいのは刷毛とローラーの使い方です。幅の広い部分はローラーを使い、10センチ未満のところは刷毛で塗りますが、どちらも含ませた塗料が均一になるよう網で濾すのがポイントです。刷毛は山羊の毛で出来たものが一番で、塗料の含みもよく、塗りもスムーズです。

木に塗る場合は、下塗り・中塗り・上塗りを行って仕上げますが、下塗りの後に木が膨らんでざらつくので一度ペーパーをかけてから中塗りし、その後さらに細かい目のペーパーを掛けて上塗りします。金属の場合は錆止め塗り・中塗り・上塗りをして仕上げます。ローラーにしても刷毛にしても、塗料の

適量を見極めないときれいに塗ることはできません。この辺が塗装の腕の見せどころかも知れません。

この他にも塗料の調合など、塗装はいろいろ手間もかかりますが、きれいな仕上がりに見てお客さんが喜んでくれると嬉しくなりますね。



狭いところは刷毛で

現場に並んだ塗装道具

特集 シルバーの職人たち

丁寧な仕事で
仕上がりをきれいに鈴木 隆 会員(玉造)
建設・建築業歴 29年

シルバー人材センターに入会後、木工事職人として就業9年になりました。市内の建設会社に10年、同じく市内の工務店に10年、この間に木工事、タイル工事、ブロック積み、クロス工事等の技術を習得しました。その後は個人でリフォームの会社を経営していました。会社では、主に現場監督として施工管理を任されています。シルバーと合わせると40年近く建築の現場にいることとなります。個人で営業していた時は、それまで勤めていた会社の友人から仕事の紹介を受けていました。仕事の内容は、工務店では引き受けられないような小規模な修繕や住宅のちょっとした困りごとへの対応で、建築現場

で覚えた塗装や左官職人の仕事が役に立ちました。シルバーの今の仕事とあまり変わらないようなことをしていました。

大工職人として常に心掛けていることは、できる限り丁寧な仕事をして仕上がりきれいにするということです。そうすることで、後から手直しが出ることもありません。そして、使う人の身になって工作物に工夫を加えるようにしています。ですからこちらの意見を気持ちよく受け入れてくれるような気の合う依頼主に出会うと仕事も楽しくなりますし嬉しくもなりますね。



建物の一部を鳥小屋に改築

表札作り

骨董店などからも頼まれます

趣味で表札を作り始めてかれこれ20年ほどになります。きっかけは、元々興味を持っていた「柱掛け」を自分で作ったことで、それ以来仕事の合間をみても表札づくりをしています。書体の本を参考に文字のデザインを決めたり、気に入った材料(木材)を探したりするのも楽しみのひとつです。工具を全部そろえるのは大変なので、知り合いの建具店や工務店で材料の下地加工を済ませることもあります。

個人的には表札の出来にある程度満足して作っていましたが、作品を見た友人や、その話を聞いた人などからも制作依頼が来るようになりました。そんな時はノコギリを彫刻刀に持ち替えて表札作りに精を出します。一文字一文字に気持ちを込め、大工仕事と同様に丁寧に彫り上げていきます。堅い樺の木地を使用したときなどは、しばらく指が固まって動かせなくなりますが、彫った文字が木目の中に浮かび上がると何とも言えない気分になります。

これまでに制作した作品は大小合わせて50枚くらいになります。大きなものは骨董店などに飾られているので見るたびに制作当時の苦労を思い出しま

す。現在は表札の他に自然木を使った置物と飾り物づくりに取り組んでいます。出来上がった作品はまだ少なく4点くらいです。素材で作品の良し悪しが決まってしまうので材料探しが大変ですが、それもまた楽しみのひとつです。



表札と愛用の道具

店舗用の
大きな表札

困ったときは センターへご相談ください

ご家庭で何か困ったことがあったら、まずはシルバー人材センターの事務局にご相談ください。後日、事務局から連絡を受けた会員が見積もりにお伺いし、ここで受注内容についての詳しい打ち合わせをさせていただきます。

これまでにセンター大工会員が行った仕事の内容は下記の通りですが、原因が複雑な雨漏り修繕や、危険を伴う高所(2階以上)作業についてはお引き受けできませんのでご了承ください。

シルバー事業は会員の生きがいづくりを目的としているため、一般に比べ比較的低料金のうえ、お引き受けした仕事は、会員が責任を持って完了させますので、安心してお任せください。

また、センターでは大工仕事だけでなく、さまざまな仕事についてもお引き受けしていますのでお気軽にお問い合わせください。

※くわしくはシルバー人材センター事務局(☎0476-366161)へ

受注実績

台所・物置等の棚作製、車庫等のトタン張替え、引き戸調整および修理、庇軒先等の裏側張替え、倉庫棚板取り付け、床張替え、階段手摺取り付け、雨どい修理、縁側支柱修理、ドア取付けおよびドアノブ交換、勝手口ドア修理、縁台作製、ポンプ小屋作製、下駄箱引き出し修理、ウッドデッキ施工、天井ボード張替え、鳥小屋作製、車庫の屋根修理、戸袋修理、小屋等の塗装、アパート周りの塗装、荷台塗装



最近雨戸の
閉まりが悪くて…。

古くなった襖を
張替えないと。

仕事が多くて職人さんが足りません

成田市シルバー人材センターには大工職の他に植木剪定などの造園関係の職人や障子・襖張りの職人、除草作業に従事する職人などがいます。センターではこれらの職種について技術と経験を持った人を募集していますので、入会を希望される人はシルバー人材センター事務局へご連絡ください。

大工職

仕事の内容は棚などの作成、引き戸や扉の調整および修理、塗装などさまざまです。雨樋などの修理、屋根の塗装などの場合、2階以上の作業は危険を伴うので引き受けていません。大工仕事の経験が必要となります。

植木班

1年を通して作業がありますので身体が丈夫で体力のあることが第一です。経験がある人はもちろん、「家では植木の剪定をしている。」といった植木に興味を持っている人も大歓迎です。剪定に必要な鋏、脚立、バリカンなどさまざまな道具や軽トラックは個人で用意していただきます。

障子・襖張り

障子、襖の張替えのほか、網戸の張替えも行います。張替えに興味があれば経験がなくても担当会員が指導します。発注者への対応や必要な材料の手配、引き取り、納品まですべて個人で行います。引き取りや納品のため軽トラックなどが必要です。

除草班

植木作業と同じく、屋外作業のため身体が丈夫で体力のあることが第一です。暑い夏場が仕事の最盛期なので暑さに強い人が向いています。草刈に必要な道具は全部個人で用意していただき運搬に軽トラックが必要になりますので所有している人は大歓迎です。

また、主に女性を対象とし、鎌を使った草取作業が出来る人も随時募集しています。





空港周辺道路美化活動

11月10日、ボランティア活動の一環として、なりた環境ネットワーク主催の空港周辺道路美化活動に、下村理事長をはじめとする理事や広報部会員、事務局職員が参加しました。これは年2回、成田国際文化会館から「成田東武ホテルエアポート」付近までの約6キロの道路清掃と花壇への花の植栽が実施されるもので、本センターでは毎年この活動に参加しています。

出発式は成田国際文化会館で行な



出発式へはオレンジベストで



歩道脇のビニールを回収

われ、その後活動の起点となる「ホテルマイステイズプレミア成田」付近へ移動し、4方向に分かれ清掃が開始されました。

歩道にはたばこの吸い殻などが落ちていた程度でゴミはほとんどありませんでしたが、歩道脇の植え込みには、風に乗って飛んできたと思われるビニールやドライバーが投げ捨てたと見られる空き缶、食品の袋などが散乱していました。また、落ち葉の中に紛れよく見ないとわからないゴミもたくさんあり、清掃が終わるころには各自のゴミ袋がいっぱいになりました。

天候にも恵まれ、秋の空気に包まれながらゴミ拾いをする約3キロの道のりは気持ちよく、道路もきれいになったところで今回のボランティア活動も無事終了となりました。

コロナ禍におけるシルバー事業

契約額が微増に

シルバー事業では、公共や民間企業、一般家庭から多くの仕事を受注していますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う公共施設や民間企業の休業および利用制限等により、前年度は会員の就業機会が大幅に減少するなど大きな影響を受けました。今年度はワクチン接種や感染予防が徹底されたことにより経済状況が改善に向かい、僅かながら契約金額が増えました。

感染者状況は

事務局では、職員や会員から感染者は出さないという意識を持つとともに、あじさい通信を通じて会員に感染予防対策を呼び掛けましたが、残念なことに事務局職員1名が新型コロナウイルスに感染、また、別の1名についても家族が感染し濃厚接触者となったため自宅待機となりました。幸いなことに他の職員は全員がマスクを着用していること、また、パーティションを設置し、職員間の席も1m以上離れているなどの職場の状況から、濃厚接触者と疑われる職員はいないものと判断され、通常

業務を行うことができました。

会議は中止やオンラインに

緊急事態宣言中は予定していた会議は中止とし、上部団体との会議、研修はすべてオンラインでの実施となりました。

入会説明会

入会説明会は感染拡大を防止するため令和2年6月より予約制で再開しましたが、7月に緊急事態宣言が発令されたため再度中止となりました。しかし、説明会への問い合わせも多かったことから、宣言解除を待たずに再開に踏み切りました。感染拡大防止の観点から、説明会に参加される方には、マスクの着用と入口での手指消毒、検温にご協力をお願いします。



感染予防に努める事務局

会員紹介

「人との関わりが魅力です」

形野 秀子さん(江弁渡)



形野さんは昨年12月に入会し、現在は通学路防犯広報啓発活動(通パト)で就業しています。シルバー人材センターに入ろうと思ったきっかけは、市の広報で特集記事を見た時に、そこに紹介されていたさまざまなお仕事に心惹かれたことで、とにかく楽しく働きたいという思いで入会したそうです。

通パトの仕事について伺うと「狭い道を通ることもあるので、特に安全には気を使っています。パトロール中、巡回を楽しみに待って挨拶してくれる人や、手を振って話しかけてくれる人がたくさんいることが嬉しいですね。子どもからお年寄りまで多世代の人と関われる事もこの仕事の魅力です。」と答えてくれました。前職ではテーマパークで人と接す

る仕事をしていたとのことで、訪れた人たちが自然と笑顔になって楽しい時間を過ごせるように心掛けて働いていたそうです。

趣味を尋ねるとドライブにガーデニング、色鉛筆絵画など多才で興味深い話もたくさん伺うことができました。特にガーデニングの話では「ガーデナーの上野さんの庭が大好きで、いつか見に行きたいと思っている」と楽しそうに語ってくれました。

ボランティア活動もされていて、不定期での絵本の読み聞かせを楽しみつつ、「今後はボランティアガイドもやってみたい。」と、忙しい日々を笑顔で過ごされているのがとても印象的でした。



緑の溢れる庭



町たんけん



10月15日、生活科「町たんけん」として、久住小学校の2年生の児童13名が本センターを訪れました。これは自分たちが住む町を探検し、いろいろな場所やもの・人に出会いながら、町への親しみと愛着を深める目的で行われています。児童からは、始めにしっかりと挨拶があり、その後、事務局職員に、「どのような仕事をしていますか。」何人で働いていますか。



職員からの説明を熱心に聞く児童たち

か。「働くなかで大変なことは何ですか。」など、いろいろな質問がありました。職員がそれらについて説明すると、その答えひとつひとつにさまざまな反応があり、熱心にメモをとっていました。後日、訪問した児童全員からお礼の手紙をいただきました。手紙には「みんなのためにいろいろなしごとをしていることがわかりました。」「これからもおしごとがんばってください。」「など驚きや励ましの言葉が書かれており、センター職員も大いに元気づけられました。今回の取り組みはシルバー人材センターを知ってもらおう良い機会にもなりました。」



お礼の手紙

わたしの趣味 —将棋—

田村 健二 会員(美郷台)

わたしの趣味は将棋です。始めたのは中学生のころですが、18歳で就職して職場の仲間と指すようになってから夢中になり今でも指し続けています。将棋は年齢性別に関係なく対等に行えるゲームで、リタイア後もいろいろな年代の人たちと対局を楽しんでいます。将棋の最大の魅力は、場面ごとに膨大な数の



指し手があり、いくら読んでも答えにたどり着くことができないところです。最近はAIに数百億手も読ませることができる時代となりましたが、それでも先が見えない奥深い

世界です。そして将棋のもう一つの魅力は「指し手」という言葉を通して相手との会話を楽しむことです。自分が考えた手に対し相手もそれに応えるという形で対局を進めますから、直接しゃべらなくてもお互いの考えが分かります。相手の気持ちがよく分かる人ほど強いといえます。わたしが現在代表を務めている成田将棋クラブでは、気心の知れた仲間たちと毎週楽しく将棋を指しています。藤井四冠の活躍のお陰で小学生の会員も増えはじめ、その指導にも力を入れています。将来プロ棋士を目指すような強い子を育てたら嬉しいですね。



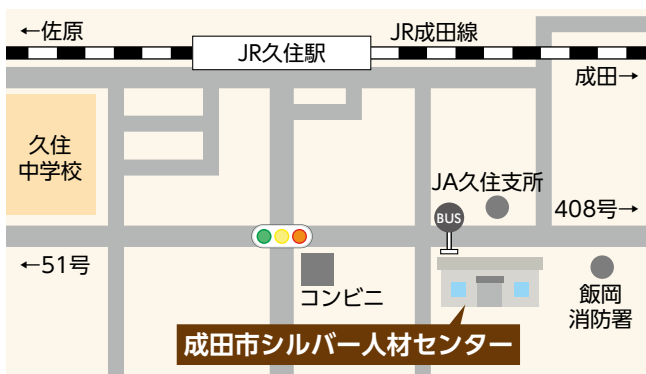
事業実施状況報告

事業実施状況報告(4月~9月)

		令和2年度	令和3年度
会員数	男	385人	383人
	女	96人	102人
	合計	481人	485人
就業実人員		372人	383人
就業率		77.3%	79.0%
受託件数	公共機関	223件	244件
	民間企業	399件	435件
	一般家庭	917件	1,002件
	合計	1,539件	1,681件
契約金額		91,603千円	102,871千円

会員数、契約金額とも微増

昨年度は新型コロナウイルスの影響を受け、契約金額の大きな就業先が減るなどしたため、受託件数、契約金額ともに減少しました。今年度もコロナ禍は続いているものの、会員数、契約金額は僅かながら増加に転じました。また、植木剪定作業については、従事する会員が減少したため深刻な人手不足となり、年度内の作業予約は11月で締め切りとなりました。なお、令和4年4月からの予約は1月11日より受付を開始しています。



編集・発行 公益社団法人 成田市シルバー人材センター 広報部会

〒286-0819 成田市久住中央1丁目12番地3
TEL 0476-36-6161 FAX 0476-36-6711

http://webc.sjc.ne.jp/narita/index

E-mail: narita@sjc.ne.jp

〈受付時間〉

月~金曜日 午前8時30分~午後5時15分
(土日・祝日、年末年始除く)



編集後記

今回の特集で取り上げたのは大工職です。以前はこの集落にも大工仕事の得意なおじいさんがいて、家の修理や小屋建てなどをしてくれていました。今思えばシルバー事業の原点のような存在で、紹介した会員も同じような地域の便利屋さんです。ところが大工職人に限らず深刻なのが人材不足。一番の原因は会員の高齢化からくる体調不良等による退会が増えたことで植木班は仕事の受注を断る事態に。少子高齢化ならぬ少員高齢化問題です。高齢者でつくる団体が高齢化に苦しみという笑い話のような現実を変えるためには会員の増加に加え「若返り」も急務のようです。